

研修レポート



読みやすい広報誌のために

日時 11月15日(木)
研修先 千葉県香取郡多古町(議会広報特別委員会)

人口も世帯数も榛東村より少し多い、多古町の議会だよりを目的に、強烈なパンチをくらったような衝撃

を受けました。その最大なることは、議案ごと、議員ごとの採決(賛成「○」、反対「×」、欠席「欠」)の一覧表でした。

さらに、反対討論、賛成討論を議員の顔写真を添えて内容を掲載してました。住民の知る権利を、議員として報告する義務を見事に遂行していることが感服できました。

また、写真が活きていました。文字と同じように訴えたいことが、読者に伝わるような写真を撮りたいと念ぜずにはられません。

編集姿勢が「ていねい」であることが伝わってくる箇所がいくつかありました。その一つが「表紙のこぼれ」です。仲良く散歩する姉弟に声をかけた時の2人の様子が詳しく観察されています。幼い弟の前に立ち、必死で守ろうとする姉の姿が印象的だったそうです。一般質問の顔写真も臨場感が読者に伝わるような顔の表情で、動きもあり、自然に読者に飛び込んでくるようでした。



議会改革を美浜町から学ぶ

日時 11月26日(月) ~ 11月28日(水)
研修先 福井県美浜町 他

去る11月26日~28日に三常任委員会(全議員)の合同研修を行いました。福井県美浜町では、議会改革の取り組みを学び、協議し、また、陸上自衛隊福知山駐屯地の視察や、榛東村と同時に売電に入ったS B エナジー株式会社など、京都大規模太陽光発電所(メガソーラー)施設など視察研修を行いました。

環境モデル都市飯田市へ

日時 10月10日(水)
研修先 長野県飯田市

環境整備特別委員会は、2009年に環境モデル都市の認定を受けました長野県飯田市へ視察研修に行ってきました。

飯田市は、1996年策定の「21世紀環境プラン」に基づき、地域ぐるみで地球環境保全活動や再生可能エネルギーを活かしたまちづくりに取り組んでいます。

また、中部電力株式会社との共同事業で、平成23年1月28日より「メガソーラーいいだ」の運転も開始されています。出力は1MWで、発電された電力は市内の変電所に送られ、市内で利用し、エネルギーの地産地消となっています。飯田市は、長期的な目標や計画の下で、地元の事業者や様々な団体と協働で先進的な事業を行っており、榛東村も学ぶべきことが多岐にわたりました。

群馬県町村議会

議員研修会

日時 10月24日(水)

研修先 吉岡町文化センター
演題 住民自治の向上と議会改革(住民自治の根幹としての議会)を創造する

講師 山梨学院大学法学部

教授 江藤敏明氏

町村議会はいま大変な時期を迎えています。消極的な面では、議員定数の削減や、議員報酬に対する批判などがあります。町村議員は住民の代表としてのプライドを持たなくてはなりません。ここ何年間の間で、町村議会の特徴をださなくてはならない。議会基本条例や通念議会の開催のあり方などの講演を聞きました。

演題 想定を超える災害にどう備えるか
—東日本大震災から学ぶ、群馬県の災害特性と対策—

講師 群馬大学大学院教授 片田敏孝氏

日本の沿岸は過去幾度となく津波により壊滅的な被害を受けてきました。いつか必ず来る、しかし、津波警報が出ても避難しないのが常態化していたことが、災害を大きくしていたと話されています。群馬県の災害の危険性については、火山活動や県北部では深層崩壊の危険性が高いゲリラ豪雨、巨大台風の増加で洪水、土砂災害のリスクは今後ますます増大するということです。恵み豊かには災い豊か、自分の身は自分で守るといふ、子供たちには防災教育の必要性を感じました。

